

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 7月 4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201450		
法人名	株式会社 SOCサポート		
事業所名	グループホーム シェアーハッピーネス		
所在地	広島市安佐南区伴中央2丁目8-10 (電話) 082-962-7597		
自己評価作成日	令和4年6月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490201450-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490201450-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年6月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様が1日1日を楽しく過ごしていただけるように、趣味活動や運動、脳トレ、イベント、創作活動などを組み込んでいる。最近では、専門家によるリハビリテーションの導入(ご家族・ご利用者様の希望者のみ)をすることにより身体機能維持・向上を図っている。またテラスガーデンを設置し、外気に触れる機会を設け花を見たり田植えの様子を見たりと、季節を感じていただけるように配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の思いについて認知症を理解した職員がくみ取り、日常のケアを行っている。感染症予防には特に力を入れ、電解精製水での手洗いを励行するなど健康環境整備に取り組んでいる。コロナ禍、職員がペットボトル活用のボーリング遊びなど、室内イベントの工夫を凝らし楽しく過ごせるよう支援している。事業所所有の農園で果実狩りや散歩を楽しむ機会の充実を図り、利用者個別にドライブに出かける支援も行っている。おせち料理、お花見弁当、職員手作りのクリスマス会食など、季節ごとの行事食で食を楽しむ機会を多く設けている。職員教育、研修も充実し、利用者目線のケアの質の向上につなげている。ハッピーネス通信で利用者の日常を写真で発信し、家族に日々の暮らしを伝えるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は「利用者が住み慣れた地域で安心して生活できるように専門的知識と経験に基づき誠意を持ったサービス提供をしていく」というものである。2ヶ月に1度行う職員研修時に、その意味合いを様々な角度から説明している。	2か月に1度の職員研修時に理念の確認を行い、理念の意義がケアに反映されるよう取り組んでいる。日常的にはケアを取り巻く様々な事象の中で多角的に理念を分かりやすく管理者が説明し、スタッフと共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍であるため積極的には交流の機会はもてないものの事業所の運営内容について地域から理解されるように日頃から努めている。地域の方々がグループホーム周囲の草むしりのボランティアをして頂いたり、栗や柚子などをお裾分けしてくださったりと利用者とは直接的ではないが交流している。	事業所周辺に花を植え、花談義をしながら地域とつながり、認知症の理解が得られるよう取り組んでいる。玄關脇にバルコニーを作り、地域の住民と会話を楽しめるよう工夫をしている。ボランティアから花壇の整備や草むしりの手伝い、農作物の差し入れなどの提供があり地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現時点では、地域貢献につながる活動はないが、近い将来に認知症についての相談を受けられるような体制を作りたいと考えている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、運営推進会議は職員及び利用者からのみの参加となっている。	民生委員、地域包括支援センターなど参加者に事業所の取組みを報告して電話で意見を得ている。意見報告は、身体拘束の事例と検討、対策などの資料と一緒に会議議事録として参加者に送付している。民生委員からは地域の民生委員の事業所見学依頼があり、コロナ収束後に対応予定である。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	開設時は市町担当者と連絡を取り事業内容について説明することがあったが、コロナ禍のため現在は具体的な取組みはない。	市とは疑問点がある場合に直接問い合わせ、相談に応じてもらうなど、日ごろから連絡をとり、事業所の取組みなども伝え、協力関係を築くよう努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を定期的実施し職員全員が参加。身体拘束についての基礎的な考え方に加え身体拘束とはどういう事か、なぜしてはいけないかを具体的な事例をあげながら考察しレポートを提出するなど定期的に勉強会を実施。これにより、職員も身体拘束をしてはいけないという意識を持って職務にあたっている。	身体拘束の具体的事例検討の研修を定期的開催し、身体拘束を正しく理解し、ケアの振り返りを行いながら身体拘束をしないケアに日常的に取り組んでいる。例えば、スピーチロックを回避する言い方、対策など具体的に検討し、実践に活かした取り組みを行っている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束の研修に加え虐待防止の研修を行っている。身体的な虐待だけでなく言葉遣い等にも気をつけ精神的な虐待を感じないような取り組みを行っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社協のパンフレットを各フロアに配置し説明をしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、出来るだけ詳しく事業内容を説明して理解してもらい納得できるよう努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話での連絡時や家族にお会いした時に、家族の個々の要望をできる範囲で取り入れている。	コロナ禍の面会要望を真摯に受け止め、さらに月一度、家族の希望の時間帯に利用者の様子を連絡して欲しいという個別の要望にも応え家族意見を反映した支援をしている。購読していた新聞やヤクルトの宅配を継続して欲しい要望もすぐ実行され、利用者、家族の意見が反映された取り組みが行われている。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<b>○運営に関する職員意見の反映</b>  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全員参加する職員研修を2ヶ月に1回、リーダーミーティングを頻回に実施し、業務の見直し・改善を図るとともに、職員の意見を一つ一つ検討し運営へと反映している。	管理者に相談しやすく、提案を検討してもらえることができる職場環境である。褥瘡のある98歳の利用者に対して、ケアの質の向上、環境の見直しから、上質なエアマットの購入を提案した際、購入してもらえた例もあり、職員の意見が運営や利用者のケアに反映されている。	
12		<b>○就業環境の整備</b>  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務態度を給料へ反映、また個々の生活状況に応じて勤務体制を検討し働きやすくやりがいのある就業環境を作るように努めている。		
13		<b>○職員を育てる取組み</b>  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティングの中で個々の職員の意見を尊重しまた、日々コミュニケーションを密にとりことで職員の勤務態度や意欲を把握している。コロナ禍により外部での研修の受講が難しいが2ヶ月に1度の職員研修にて管理者が社内研修を行っている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b>  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現時点ではそのような取組みはしていない。グループホーム事業者の勉強会等オンラインでの研修は参加。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b>  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご相談の段階より、ご要望を伺うことに努め家族・本人と密にコミュニケーションを取り信頼関係が築けるようにしている。生活歴や環境、性格などの情報収集を行い、話している時の表情や様子も観察しその方が今後どのようにしていきたいかどのような不安があるかなどを傾聴するように対応している。安心して生活ができるように努める。		

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	現在はコロナ禍のため家族との面会が中止しているため直接お会いして不安や要望を聞く機会が少ないのが現状。家族と定期受診される際には、来所された時に入居者様の現状をしっかりと情報共有。少しでも入居者様が変わったことがある場合は電話にて連絡。毎月お便りを発行して運営内容を伝達。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現状の不安や要望に応えられる様に入居者様一人一人にあった支援を考え対応。コロナ禍で外出頻度が減り運動機能が低下している入居者様に対してはPTより指導を受け自主練習等を介護スタッフと一緒に رفتり、運動機能が顕著に低下しており家族・本人が希望された場合理学療法士による自費リハビリを受けられている方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者が今まで生活していた中で得た知恵や経験を教えて頂きながら、干し柿作りや栗ご飯作り、日常生活の中では掃除や洗濯など役割を由来することで、お互いが支え合い助け合いながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と信頼関係を築き、いつでも連絡を取れるようにしている。家族の入居者様に対する思いを大切に傾聴。遠慮なくお話ししていただけるような関係性が築けているご家族様もいる。コロナ禍でなかなか会えないものの月一回の通信で様子がわかるように様々な表情の写真を載せるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の外出や面会の制限により馴染みの場所に行ったり人に会ったりできていないのが現状。情報収集してきた昔のお話をする中で大切な人や場所が思い出していただけるように声かけを行ったり写真や固有名詞を出したりすることで馴染みの人や場所を思い出していただく。認知機能の低下により忘れ思い出せないことに不安を感じる入居者もいる。	馴染みの友人からの電話や手紙など、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。利用者の馴染みの人や場所を日常会話や生活歴から職員で共有し、面会や外出に繋げ、関係継続の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b>  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格を把握した上でフロアで座っていただく座席の配置など配慮し、入居者同志の会話がスムーズになるよう配慮している。共同して行えるような工作を実施している。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b>  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了時は、家族の要望を聴きながら次の事業所や病院を探すお手伝いをしたり、また情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<b>○思いや意向の把握</b>  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	過去の生活歴から得た情報だけでなく、日々の様子や要望を聞き取り、ユニットスタッフ1人1人の意見や観察情報をもとに利用者について分析する。一人一人のニーズに応えられるように、意向の変化がないかなど再確認している。聞き取りが困難な場合や今までの情報やご家族の意見も参考にさせて頂きながらご本人の立場に立って検討している。	利用者一人ひとりを観察し、ちょっとした言葉や行動を見逃さないよう、日々の生活の中からどのように暮らしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかなどを把握、汲み取り、情報を共有して利用者の視点に立ったケアとなるよう努めている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b>  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に、ご家族や相談員、ご本人から生活環境や背景などの情報収集を行っている。居室担当者の配置をして、入居後も本人やご家族から情報収集を行っている。		
25		<b>○暮らしの現状の把握</b>  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタル測定を実施し申し送りを行い日々の身体状況の変化を情報共有。入居者の日々の観察を怠ることなく、身体状況だけでなく精神面でも少しでも様子の変化や身体的な変化があれば報告するようにスタッフ間で声かけをし合っている。個人記録に本人の様子を記載し文章に残し、出勤していないスタッフでも情報を共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	居室担当者がモニタリングを実施しモニタリングが正しいかスタッフ間で話し合いを行う。介護計画には、本人や家族の要望を聞いた上で職員の介護上の意見を反映し作成するようにしている。介護計画の内容をスタッフ間で再確認し見直しが必要な場合管理者や主治医、看護師など他職種で検討している。	利用者の思いを反映し、暮らしの質を向上させるプランを、管理者、ケアマネジャー、担当スタッフなどで検討し、家族の同意を得て実践している。帰宅願望、転倒などに対しても、アイデアや工夫、改善策で計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	個人記録に日々の様子やどのようなケアを行ったかについて記載し、変化があった場合は連絡ノートを使用し職員が情報共有と確認が行えるようにしている。連絡ノートを読んだスタッフは印鑑を押し、見落としがないように気をつけている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	生活の場であるため、新しく生まれたニーズでも出来ることであれば実行に移している。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	コロナ禍のため地域資源の活用は十分に実施できない。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	個々の病状に合わせて、必要な受診を行ってもらっている。	かかりつけ医の受診を希望する場合は、希望を大切に受け止め支援している。受診時の介助は家族同行が基本だが、職員が同行する場合もある。医療協力機関の連携態勢も整えられ、適切な医療を受けることができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝と夕に申し送りを実施し、身体機能について変化があれば併設の訪問看護ステーションの看護師に報告するようにしている。それ以外にも入居者の身体状況について情報共有を日々行い、相談があれば電話にて連絡を行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には相談員にグループホームでの生活状況についての情報をしっかりと伝達している。退院の際には、入院中の情報を伝達してもらい、退院後のグループホームでの生活介護に活かしている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に終末期に向けた方針を家族に説明、身体状況の変化に応じて家族と本人の意向を話し合う場を設けている。入居後看取り期の医療・ケアの指針についてガイドラインに沿って本人と家族の意思を確認。定期的に見直しを行い、他職種で情報共有し支援。	その人らしい最期を迎えられるよう、利用開始時に家族と意見交換し意思確認を行っている。状況に応じて、見直しを行い、方針を共有し、緊急対応などガイドラインに沿った支援を関係職種とチームで取り組んでいる。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時に備え、救急時の対応方法の把握やスタッフ間の連携について確認。急変や事故発生時には、対応スタッフが入居者の安全の確保を行い主任・連携医・看護師へ報告しその後の対応を即時に検討、救急要請の必要があり家族が帯同できない場合は他利用者の対応も考えた配置を調整した上でスタッフが帯同。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災については、スプリンクラーの設置及び消防への自動通知で対応している。地震や水害の場合は、その時の状況に応じて避難方法を選択する予定となっている。地域との協力体制は特別には築いていない。	火災・地震・水害に備えてそれぞれに対応する災害対策を行っている。職員の緊急時連携、対応の取り組みが行われている。事業所設立時がコロナ禍で町内会との協力体制が機能していないことが課題であるが、コロナ収束後には、防災訓練など協力、連携を築く予定である。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重して、丁寧な言葉選びするよう配慮。身体拘束・虐待防止について事例検討を行うなど研修を重ねている。また、スタッフ間ではお互いに注意できる環境を常に意識し積極的にコミュニケーションを取るようにしている。特に排便についてや不穏時の対応について気を配っている。	人生の先輩として、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけ、対応をしている。特に排泄に関して、利用者の習慣、態度を観察し、周囲に気づかれず、尊厳を守る寄り添い方をしている。スピーチロックにも気を付け、お互いに注意し、改善しながら誇りを損ねない対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	得た情報から「この人はこういう人」とスタッフが決めつけず本人の想いを傾聴。発話や表出が難しい入居者には声かけし表出の手助け。ご本人のしたい事を尊重し希望に応じて臨機応変に対応。家に返して！と窓を叩いてしまうご利用者に対しすぐにご要望に添えないことがあるが、ご本人がなぜ帰りたいのか寄り添い傾聴をするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームでは、体操やレクリエーションの時間を設け生活のリズムを作るようにしているが、一人一人のペースが作れるように本人の思いを確認しながら全ての活動に無理して行わないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った衣類の交換などご家族にも協力して頂いている。朝は鏡を見ていただくように心掛け、更衣を行う前にその日に着る服を一緒に選んでいる。今はコロナ感染予防のため外部者との接触を控えているため理美容がなかなかできていないが、感染者数が少ない時には理容師に依頼し髪型を整えて頂いた。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に一度、季節を感じるができるような行事食を実施している。昨年は干し柿作りや栗ご飯作りなどにも協力して頂き作る過程から食べるところまで楽しんで頂いた。食後の食器拭きなどは協力して頂いている。チラシ等を見て食べたいものを伺ったり、スタッフがご要望に沿った野菜を買ってきて見て頂いたりしている。	年越しそば、お節料理、お花見弁当、職員手作りのクリスマス会食など四季折々の行事食を楽しめる支援をしている。利用者の希望のお好み焼きを職員と一緒に作り、出来上がる過程や匂いも楽しめるよう支援している。日々の小さなイベントを工夫し、一日一日の食の楽しみを大切に考え支援している。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b></p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量と水分量は毎日記録に残し、食事や水分量に不足がないか確認。看護師・医師に相談し体調等考慮して、補助食品等を提供する場合もある。食事の栄養バランスは配達食でありバランスが取れているものになっている。</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b></p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔ケアは自分で実施できる方は行ってもらい、介助が必要な方は義歯の洗浄・残歯の仕上げ磨きを行い口腔内の清潔を保っている。また、定期的な訪問歯科による治療も実施している。</p>		
43	16	<p><b>○排泄の自立支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>定期的なトイレへの声かけや誘導。本人の訴えや表情をみて排泄のサインを見逃さないように努めている。ご自身でトイレに行かれるが失敗してしまった場合などは、自尊心を傷つけないように配慮をしながら交換のお手伝いに介入。排泄に関する声かけ・言葉選びに配慮するよう心掛けている。</p>	<p>行動観察や習慣から排泄パターンを把握し、基本トイレでの自立排泄を職員間で共有し支援している。布パンツの利用者も現時点で2名いる。トイレ介助にも、利用者の尊厳を守る声掛けを行い、自尊心を傷つけない自立排泄につながる支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表にて排便管理実施。便秘薬等服用の入居者様にはコントロールができていないか看護師・医師とも相談しながら調整している。水分をしっかりと摂取できているかどうか水分量を把握。体操時に排便が促せるような体操を取り入れたり便秘予防の働きかけを取り入れていく予定。</p>		
45	17	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日は事前に予定に組み込んでいるが、ご本人がその日に入浴したくないと希望されたり体調不良の場合は入浴日を変更している。入浴剤を使用して時間をゆっくと確保したり、リラックスして入浴できるように支援している。</p>	<p>入浴は週2回だが、土日を予備日にして希望に応じた対応が行えるよう支援している。浴室はリフト付き浴槽で、床のタイルは水滴がすぐ乾く材質ですべらないよう清潔、安全に配慮している。医療用の沐浴剤を使用するなど、入浴が快適な時間となるよう工夫し支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<b>○安眠や休息の支援</b>  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	13時より昼食後の休憩時間を設 けている。午睡により午前中の 疲れをとって頂いている。夜間 はご入居者のペースや希望に 応じて居室に戻って頂き臥床し お休み頂いている。		
47		<b>○服薬支援</b>  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	提携の薬局により配達された薬 は提携している看護師が設置し ている。薬の変更が合った場合 は目的や副作用を確認。薬の用 量用法を守り服薬して頂いてい る。排便、皮膚状態、食事摂取 量、体調、行動の変化などがあ れば主治医・看護師に報告し ている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b>  張り合いや喜びのある日々を過 せるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品 、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている。	食後の皿拭き・洗濯物干し・洗 濯物たたみなど役割を決めて行 なって頂いている。編み物をし たい方は編み物をお花が好きな 方は園芸や水やりを頭の体操が したい方は脳トレなど、ご本人 がやりたいことを中心に提供し ている。		
49	18	<b>○日常的な外出支援</b>  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	コロナ禍であり感染予防のため 積極的な外出は実施できていな い。屋外のテラスに出て一緒に 水やりをしたり、田植えの様 子を見たり、桜を見たり、お茶 をしたりといった支援は行っ ている。	近隣にある法人所有の農園で果 実を収穫したり、散策したり、 弁当を食べたりして日々の外 出支援が行われている。コロ ナ禍、利用者の希望を把握し て、個別にドライブを楽しむ取 り組みも行われている。	
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b>  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	お金を所持することで、お財布 がなくなった・誰かに取られた ・お金をあげたなどの問題とな るため基本的には入所時にお 金は所持していただかないよう にしている。どうしても希望さ れた場合は家族や職員全体相 談して決めていきたいと考 えているが今までそういった事 例はない。		

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>携帯を持っている入居者もおおり、その場合はかけたい時に電話をしている。フロア専用の携帯電話を置いているため、その携帯に家族から電話がかかってきた場合にはお話しできるようにしている。利用者からお手紙などを書いたり、ご家族が郵送・持参された場合はお渡ししている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>フロアには季節に合った壁画を入居者と一緒に作成し貼り季節感を味わって頂いている。トイレには看板を作成して場所がわかりやすいようにしている。室温・湿度を測定して温度調整を行い、入居者が過ごしやすい環境を作っている。</p>	<p>感染症対策の環境整備には特別の配慮をし、安心して過ごせる空間になっている。壁には利用者の成果物が飾られ季節を感じて過ごせるよう配慮している。各居室の扉の上にはスタンドグラスが配置され、フロアにはピアノが置かれ、音楽が楽しめ、居心地よく暮らせる環境になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>個々の居室があり、自由に居室でくつろぎ過ごして頂くようにしている。フロアでは気の合う入居者同士でお話ができるような席の配置にしている。その時々入居者の状態や希望に応じて席の配置を変更している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には馴染みのあるソファを置いたり写真を置いたり、ご本人やご家族の希望に沿った物を設置するようにしている。危険物や歩行時の動線を妨げる場合は相談し配置を変更している。</p>	<p>カーテン・壁紙・タオルなどが部屋ごと色分けされて利用者が部屋を間違えないよう工夫している。利用者の居心地を優先するが、タンスやソファなど設えは利用者の症状にあわせて、安全上、動線に配慮し設置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ等の看板(サイン)の表示をわかりやすくしている。廊下やトイレには手すりが整備してあり安全に歩行や移乗ができるように設計してある。洗面やトイレへ移動する動線は安全が確保されており、十分な幅があり危険物は置いていない。</p>		

V アウトカム項目( 1ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念は「利用者が住み慣れた地域で安心して生活できるように専門的知識と経験に基づき誠意を持ったサービス提供をしていく」というものである。2ヶ月に1度行う職員研修時に、その意味合いを様々な角度から説明している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍であり積極的には交流の機会はないものの地域の方とコミュニケーションをとり交流を図り運営内容について地域から理解されるように努めている。周囲の草むしりのボランティアや栗や柚子などをお裾分けなど利用者様とは直接的ではないが交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現時点では、地域貢献につながる活動はないが、近い将来に認知症についての相談を受けられるような体制を作っていきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、運営推進会議は職員及び利用者へのみの参加となっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	開設時は市町担当者と連絡を取り事業内容について説明することがあったが、コロナ禍のため現在は具体的な取組みはない。		

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を実施。それに加え車椅子をテーブルにつけ動きづらい状態にしたままで他の利用者の対応をしていたことで入居者が精神的・身体的な弊害となる可能性がある、など症例検討を行い身体拘束をしないケアの見直しに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設では目に見えた虐待がないが、時々職員の言葉遣いで丁寧語等を使わなかったり、愛称(下の名前など)で呼ぶことがある。入居者様が不快に感じ取られると虐待につながりかねないため、職員同士で注意するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社協のパンフレットを各フロアに配置し説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、出来るだけ詳しく事業内容を説明して理解してもらい納得できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話での連絡時や家族にお会いした時に、家族の個々の要望をできる範囲で取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全員参加する職員研修を2ヶ月に1回、リーダーミーティングを頻回に実施し業務の見直し・改善を図り、職員の意見を一つ一つ検討し運営へと反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務態度を給料へ反映、また個々の生活状況に応じて勤務体制を検討し働きやすくやりがいのある就業環境を作るように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入居者様の1人1人のケア対応する点など文章化するとともに職員1人ずつケアの仕方を確認・再確認・修正し適切なケアができるよう更新している。コロナ禍により外部での研修の受講が難しいが2ヶ月に1度の職員研修にて管理者が社内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現時点ではそのような取り組みはしていない。グループホーム事業者の勉強会等オンラインでの研修は参加。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	現在コロナ禍で面会制限をしているため「家族に会いたい」というご入居者の要望がある。コロナ感染対策により、面会がなかなか叶わない状況である。そのため、フロア専用の電話を準備し入居者に気軽に電話をかけて頂けるようにしたり、主任から入居者の様子をご家族に定期的に報告している。		

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族から「会いたい、どのような生活をしていますか？」との問い合わせがある。その度、日々の生活の様子を丁寧に説明している。変化があった場合は主任よりご家族にその都度報告。また、生活の様子やレクリエーションをしている様子など月に一回新聞(ハッピーネス通信)を発行している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に入居に至った経緯やご本人・ご家族の情報収集を実施。本人が「家で生活したい」という思いを持っているケースもあり、家族と本人の思いを傾聴し施設が適した生活の場であるか確認。入所した後の想定もし、施設の生活でやりたいことや趣味などの本人の意向や生きがいを見つけ楽しく生活ができるように情報収集を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	話をする時は共通の話題を作り、その会話から不満や満足していることを把握して人間関係を築く。入居者の立場に立って会話を行うよう意識し、1人1人のペースを保てるように過度に介入しないようにしたり、近くで寄り添い傾聴したりと利用者の精神面に寄り添うことを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活にて、ちょっとした変化でも報告が欲しいご家族にはその日の夜勤者がその日の様子を報告するようにしている。その数日後に再度主任がその後の体調の様子をご家族へ連絡している。特別変化のない入居者であっても定期的なご家族への報告を1ヶ月に1回実施し、施設での様子を報告・ご要望などの確認を行う。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍のため面会制限をしているため、会って話すことは難しいがフロア専用の電話を準備し入居者に気軽に電話をかけて頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	昔馴染みのあだ名の紹介をしあう協力してできるレクリエーションを行うなど仲良く関わられるよう工夫。認知症の症状により何度も同じ話をされる方に対して他の入居者が「うるさい」と声が上がることもあるが、入居者の性格の相性を考慮しフロアで過ごしていただく席などを配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了時は、できる範囲で家族の要望を聴きながら次の事業所や病院を探し、また情報提供を行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中でご本人がしたいことや要望を確認できた場合はその都度職員同士で話し連絡帳に記載し伝達。意向を反映するにはどうすればいいか、スタッフの意見も聞いた上で管理者に相談している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者一人一人育ってきた環境も違い性格も異なるため、入居前にご本人・ご家族の情報収集をしっかりと行なっている。「こういう人である」と決め付けず入居後にご本人から得た昔の話や楽しい思い出なども聴きながら、ご本人の全体像を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	これまでの暮らしの把握した上で今までの生活や性格等を考慮し、1人1人の生活ルーティンを崩さないようにしている。様子の変化がある時(身体機能面だけでなく精神機能面でも)は、職員同士で情報共有し合うのに加え連絡帳に記載し出勤していない職員にも把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>チームで作っていくために入居者様1名に対して担当職員を決めモニタリングを実施。本人・ご家族から情報収集し担当職員と主任、ケアマネージャが話し合い介護計画を作成。認知機能の低下により、本人の意見と職員が考えるケアのあり方に差がある場合は、管理者・院長・理学療法士やケアスタッフに相談し計画している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>職員の連絡帳があり、日々の様子やどのようなケアを行ったかについて情報共有と確認が行えるようにしている。出勤者は必ず確認し印を押す、内容が理解できない場合などは必ず確認するようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>生活の場であるため、新しく生まれたニーズでも出来ることであれば実行に移している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍のため地域資源の活用は十分に実施できない。テラスで田植えの様子を見たり、小川の水の音を聞きに行ったりと伴地域を見ていた</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個々の病状に合わせて、必要な受診を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝の申し送り後変化のあった利用者がある場合看護師に報告。その他24時間体制で看護師と連絡をとっており、体調不良、排便状況・精神状態の変化、転倒などがあった場合はグループホームに来てもらったり指示を出してもらい、夜間であっても服用等で分からない場合すぐに連絡を取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員と連絡をとり連携し、入院の際には相談員の方にグループホームでの生活状況についての情報をしっかりと伝達している。退院1週間前には様子をみに病院まで伺う。退院の際には、入院中の情報を伝達してもらい、退院後のグループホームでの生活介護に活かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化・終末期における対応や方針の共有と説明を実施し、身体状況の変化に応じて個別に話し合いの機会を設けている。看取り期の医療・ケアの指針についてガイドラインに沿って家族の意思を確認。定期的に見直しを行い、他職種で情報共有し支援できるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時を想定し、スタッフミーティングを実施したり日々の業務内で話し合い救急時の対応方法の把握やスタッフ間の連携について確認している。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災については、スプリンクラーの設置及び消防への自動通知で対応している。地震や水害の場合は、その時の状況に応じて避難方法を選択する予定となっている。地域との協力体制は特別には築いていない。		

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	相手を敬う気持ちを持ち敬語・丁寧語を使用するように心がけている。認知症のレベルによって理解度が異なるため、そのかたに合った言葉かけやケアを実施している。排泄に関することは他の入居者に分からないように尊厳の確保をするよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	文章単位の発語が難しい場合はYesNoで答えられるような会話で思いを確認したり、ふと「～食べたいな」と言われた場合は準備し対応。やりたいことやどうしたいか想いを確認することを前提にし、特に訴えがない場合は職員から提案することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の業務の流れは作っているが入居者様一人のペースで過ごして頂いている。例えば、眠たいから朝食をまだ食べたくない、という方に対しては朝の声かけを行わず様子をみたり、今は体操やレクリエーションをしたくないという方には部屋で過ごしていただいたり、本人の希望に応じて生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	くしや鏡を手に届く位置に起き、朝一番に自分で鏡をみてチェックして頂いている。朝はパジャマから服へ、夜は服からパジャマへと更衣を行ってもらおう。着たい服をダンスから出せる人は出していただきできない人は職員と一緒に選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを聞き月に一度提供している。食事の量も個々に合わせて調整している。後片付けや準備は職員と一緒に手伝ってもらっており、衛生面に配慮しビニール手袋をはめていただき行なっている。		

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事量と一日の水分量を記入し栄養を把握。食欲低下や摂取量が少ない方は、Dr.Ns.と相談しカロリー摂取できるもので対応。水分量は個々の体重から1日の水分摂取量を計算し、水分摂取して頂くようにしているが水分量が少ない方は、声かけを何度か行い1口ずつでも飲んでいただく。飲みやすいコップで対応。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食食後は必ず入れ歯を外し洗っている。夜間は義歯を預かり外して頂いている。日曜日にはポリドントを使用。残歯残っている方は自分で1度磨いて頂き、磨き終わった後介護士が口腔内チェックをさせて頂き綺麗に歯を磨くことが難しい場合には職員が介助する。歯ブラシは2ヶ月に1回交換している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の意思表示ができる方はその都度対応。意思表示が困難な方は1～2時間おきに声かけをしトイレ誘導を実施。排泄時に自分で衣服の上げ下げができる方はしていただき、排泄後排便時のみ介助し拭き取りをするなどADLレベルに応じて介入。食事をゆっくり食べてもらうために食事前はトイレへの声かけを実施(無理強いはいしない)。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝と昼から体操・レクリエーションを行い身体を動かすことや水分補給をしっかりと行うことで、排便がスムーズに行えるよう促す。毎回の排便状況を記録に残し、毎日排便の状況をチェックし状態に応じて医師・看護師と相談し指示薬を適切な容量・使用方法を守り服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	1日3名の入浴支援を9時から11時の時間帯で実施しているが、入居者の精神面・健康面に応じて入浴日や時間を変更している。個々の時間をしっかりと確保しゆっくりと入浴、自分で行うことはやって頂く(例えば：着脱・洗体はできないところだけ手伝う)。便失禁などがあつた後、清潔を保つため希望を伺い、希望された方には入浴。		

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	「疲れた、横になりたい」と言 われた時は居室で休んでいただく。 20時に寝たいと言われる方は誘 導し寝て頂いたり、家では21時 に寝ていたと言われる方には就 寝時間まで自由に過ごして頂い たりと個々の就寝時間に配慮し ている。就寝中の部屋の温度調 節を実施。夜間のセンサー音に 起きてしまう入居者もいるため 対応を検討中。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬ファイルを個々に作り、変 更になった時は職員が情報共有 できるように連絡帳に記録して、 服薬ファイルをチェックしてい る。個々の薬の説明書のファイ ルを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	食後の皿拭き・洗濯物干し・洗 濯物たたみなど役割を決めて行 なっている。編み物をしたい方 は編み物をお花が好きな方は 園芸や水やりを頭の体操がし たい方は脳トレなど、ご本人 がやりたいことを中心に提供 している。1ヶ月に1回行事食 で季節を感じてもらったり、 イベント(筈ボーリング)など で楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	コロナ禍で感染予防のため外 出支援は出来ていない。職員 が対応し1階にあるテラスで お茶をしたり、お花を見に行 ったりと屋外にいただく機会 を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	現時点では認知機能低下によ り金銭管理ができる入居者が いないため所持していただか ないように説明している。		

自己評価	外部評価	項目( 2 ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各フロアに専用の携帯電話を用意、家族様には携帯電話番号を伝えるため連絡がいつでも取れる。電話がかかってきた場合は居室で話をして頂く。手紙を書くことは少ないが利用者様が希望された場合は書いて送付できるように支援。家族より届いた手紙は本人へ渡し、グループホームに届いたことをご家族へ報告している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間をいつも清潔に保ようとして心掛けています。トイレや浴室などにはプレートを貼って場所が分かり易いようにしている。朝はカーテンを開けて日光が部屋に入るようにし、夜はカーテンを閉めている。2~3時間おきに部屋の暑さなどをたずね、室温の温度調節は温度計で確認し過ごし易い室温を保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室があり自由に行き来し過ごして頂く。自宅から持ってきた私物などを置きレイアウト。フロアでは、気の合う利用者同士を隣にしたり、皆さんの中に入れていない方がいたら本人の思いを尊重した上でスタッフが間に入りコミュニケーションを取りやすくしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使っていたソファや棚、毛布、クッション、写真などを持ってきてもらい居室で使用してもらっている。必要なものがあれば都度持ち込んで頂いている。畳での生活を希望される方にはパズル式の畳を持参してもらい、居室の畳の上で横になれるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	認知機能が低下し、居室が分からない方もいらっしゃるため迷わないように居室のドア横に表札(名前)をかけている。部屋が分からない場合は誘導を行う。自分でトイレに行きたい、手を洗いたいなどと思った時に安全に移動できるように、廊下やフロアには物を置かないように動線を確認している。		

V アウトカム項目( 2ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームシェアーハピネス

作成日 令和4年7月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	15	認知機能の低下から当施設へ入所される際環境の変化から不穏症状が強く出現することがある。	本人にも納得した上でグループホームでの生活を楽しんでいただく。	入所前にご家族とご本人の意向をしっかりと確認。体験入居を設け環境に慣れていただく機会を作る。コロナ感染が落ち着いたら見学等も検討。	次回新規入所者様の対応する時に実施。
2	38	認知症を呈しており介護拒否の強い方や暴力等の危険ある人にはその人らしい暮らしを提供することが難しい。	精神的にも穏やかに、本人のしたいことを尊重して1日1日を楽しみながら生活してほしい。	認知症の不穏症状や中核症状の理解や勉強を重ね、1人1人の入居者様にあった対応の仕方をスタッフ間で話し合い、対応する。	目標達成の評価が難しいが勉強は繰り返し実施し6ヶ月以内に達成したい。
3	56	思いやりを持って接する職員もいるがただ業務として介助をする職員もいる。忘れるからしょうがないこの人はこういう人と決めつけている。	業務の一環ではなく一人ひとりの思いや日々の変化を感じ取り、楽しみを感じていただけるように工夫をする。	職員1人1人に担当入居者様を決め、ADLな変化だけでなく精神的な変化や介入方法の見直しを月に1回行う。	3ヶ月
4	57	介護度の高い利用者が多いため見守りや介助が必須となっており職員が利用者とゆったりと過ごす場面があまりない。	職員と利用者がゆっくりと話をしたりお茶を飲むなど、団欒する時間を作る。	現在はコロナ感染対策のため職員の飲食は難しいが、日中の職員人数が十分な時に入居者と散歩やテラスでの会話等でお互いの話を話す。	3ヶ月
5	66	認知症を呈しているだけでなく介護度の高い入居者が多く、夜勤は特に1人での対応なので不安も多い。	不安を職員全体で共有しアイデアを出し合う。	不安内容を書くシートを作り職員でシェアする、アイデアを出す。	1ヶ月
6	61	認知症を呈しているだけでなく高齢で身体機能が低下しており転倒危険のある入居者がほとんどである。	日々体調の変化はあるため不安がなくなることは難しいが、日々の体調の変化をしっかりと情報共有する。	日々の変化を申し送り時に詳細報告。ヒヤリハット報告書の一覧を作る。沢山提出される。記録に日々の変化を詳細に記載する。	6ヶ月
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。